島根県公立小中学校
事務職員研究会
会　長　：　吉　賀　孝　則
（浜田市立国府小学校）
編　集　：　情　報　部
VOL.76　2023.3.3（雛祭号）
発行責任者　　坂井　佳恵（大和中学校）
島事研ホームページ
http://shimajiken.com

爽

【　目　次　】

- 兎の登り坂
  （浜田教育事務所長　堀　康弘）
- 研究部コーナー
- 第 15 回島根県学校事務セミナー
  参加者の感想
- 安来市立学校事務グループ・安来市
  共同学校事務室の活動について
- 学校紹介
- まんが「しまじぃとけんくん」
- 編集後記

兎の登り坂

浜田教育事務所長　　堀　　康 弘

今年度は、島根県公立小中学校事務研究大会に初めて参加させていただきました。開会行事から４名の主任主事や主事による基礎研究発表に続き、島事研の活動報告などの総会、午後は下町壽男氏による講演、そして閉会行事で幕を閉じました。一緒に参加した教育長様とは、「とても充実した中身の濃い内容でしたね」と意見が一致しました。特に、「つかさどる」を意識した実践をとおして、事務職員の皆さんが成長をめざして真摯に活動に取り組んでおられると感心しました。

一方で、校長は校務をつかさどる、教頭は校務を整理し必要に応じ児童生徒の教育をつかさどる、主幹教諭及び教諭は児童生徒の教育をつかさどる、養護教諭は児童生徒の養護をつかさどる、栄養教諭は児童生徒の栄養の指導及び管理をつかさどる、と学校教育法に規定されています。果たして、教諭等の皆さんがどれだけ「つかさどる」を意識されているのか、少し不安になりました。それは、学校唯一の総務・財務の専門職として事務職員の皆さんがこれ程までに「事務をつかさどる」とはどういうことなのかを探究されていることを目の当たりにさせていただいたからです。これまでも事務G活動報告会及び共同学校事務室の発足や運営に関連した協議に加わったことはありましたが、今回の研究大会に参加させていただき、直に感じ入りました。これからも「事務に従事する」から「事務をつかさどる」への改正が、事務職員の皆さんや学校の組織運営にどのように好影響を与えるか、期待を込めて注目して関わらせていただきたいと思います。

話は変わりますが、浜田教育事務所の所長室には「兎の登り坂」と筆で書かれた色紙が壁に掛けてあります。聞けば、平成１０年頃に所長をされていた方が直筆されたもののようです。意味を知らなかったので、辞書を引いて調べたところ、≪ウサギは後足が長く、坂を登ることが巧みであるところから≫持ち前の力を振るうことができて、物事が早く進むたとえ、とありました。

この言葉は、学校現場にこそ当てはまることだと感じます。児童生徒の成長を支え、促すべき小中学校では、一人一人の子ども自身に得意なことや強みを見つけさせ、それを伸ばすことに取り組んでおられます。また、教職員の皆さんも、自分の長所や強みを生かし合うとともに、苦手なことは互いに支え合いながら風通しの良い職場づくりに努めることが求められています。働き方改革もそこが肝かもしれません。

研究部コーナー

「中国地区公立小中学校事務職員研究会」のご紹介

年度末を迎え、今年度１年間をまとめる時期となりました。
研究においても、今年度の活動を総括して、先日開催された理事会で報告したところです。

さて、研究部コーナーはテーマを「島事研という組織の外を意識しながら、研究に関する情報発信をしていく」と定めてお伝えしてきました。今年度の最後は、「中国地区公立小中学校事務職員研究会」（以下、中国地区事務研）についてお伝えしたいと思います。

中国地区事務研の会則では、「中国地区（岡山県・鳥取県・島根県・山口県・広島県）の公立小・中・特別支援学校に勤務する事務職員及び学校事務に関わる職員で組織する。」となっており、中国地方で、全国公立小中学校事務職員研究会に加入している各研究会が、支部として活動をしています。現在は、鳥取支部・山口支部・広島支部・岡山支部・岡山市支部・島根支部の６支部で構成され、持ち回りで中国地区事務研としての研究大会を開催するなど、相互に協力して活動をしています。

今年度は鳥取支部の主管で中国地区事務研究大会が開催され、私もオンラインで参加させていただきました。鳥取の学校事務職員の方とグループワークを行う時間もあり、鳥取県内各地の様子を知ることができました。

また、学校事務職員として同じような課題を抱えておられることを知り、意見交換することもできました。貴重な場を設定していただき、ありがとうございました。

中国地区の各支部がホームページを開設しており、どのような活動をしているのか気になったので、のぞいてみました！

島事研の活動の中に取り入れたら面白そうな活動、似ている活動を行っている様子がありましたので、ご紹介します。

○ある県の今年度の研究大会では、分科会発表を劇仕立てで行ったそうです。
これを島事研に取り入れるとしたら
⇒基礎研究期間中の島事研の研究大会発表は、発表者の希望を伺いながら、発表形式を決めていくようにしています。研究発表を行うとなった時に、劇仕立ての方が伝わるんじゃないかと思う方がいらっしゃれば、それもお手伝いできます！

○ある県のホームページでは、実践事例を漫画にされたものを動画で紹介していました。
これを島事研に置き換えると
⇒今次の研究中期計画については「しまじぃ」と「けんくん」が登場する動画を作成して、そこで説明をしています。研究中期計画を知りたい時、思い出したい時は、動画の視聴をお願いします。

島事研ビジョンに社会人の学びに関して「７０：２０：１０」の数値を示しています。

島事研ビジョン
チェック！！

前号の「爽」でも「機会があれば、ぜひ他の都道府県の研究大会にも参加してみてください」と書きましたが、各県でも様々な取組をされています。

来年度の中国地区事務研究大会は山口支部が主管で開催予定となっていますので、学びの場の一つとしてご紹介いたします(^^)。

第15回 島根県学校事務セミナー

期日：令和５年１月２０日（金）
会場：出雲市民会館
講演「自分起点でジワジワ広げていく
　　業務改善～ワクワクを大切に～」
講師：横浜市立日枝小学校　事務職員
　　上部　充敬　様
演習「やってみよう！！業務改善～私にもできる働き方改革～」

⇩⇩⇩参加者の感想⇩⇩⇩

多様な人がいる職場のなかで、１人で抱え込まずシェアする大切さがわかりました。私は１人で完結させてしまうところがあるので、いろんな人に意見を求めたり、一緒に考えたり作業したりしていきたいです。影響の輪の話は、とても印象的でした。まさしく、自分起点で、ジワジワ広げていく業務改善ですね。イメージができました。わかりやすい実践をもとにした話だったので、自分でもできることを考えながら、あっという間の時間でした。

周りの人を頼る、巻き込む、一緒にやる、そうすることで自分の仕事を少しは理解してもらえるし、自分がいなくてもそれぞれが自発的に動けるようになる。職場のみんなで予算の使い方の意見を出し合う時にワクワクするのは、これだなあと思いました。上部さんのような素敵な発想は、なかなか浮かびませんが、まずは職場のみんなと合意形成できるようにワクワクする職場づくりをしていきたいと思いました。

業務改善・働き方改革で大事している２点が印象的でした。①まずは自分自身を大切にすること。…自分自身を大切にするためには、職場が良い雰囲気で、みんなが生き生きしていることである。②行動に移し、みんなでシェアすること。…同じ想いの仲間から広げ、みんなで納得したうえで改善していくことである。①②を実現するためには、様々な取組・実践が考えられるが、まずは目の前の仕事だけではなく、職員の様子（観察）をみること、日々のコミュニケーションが重要であることを強く感じました。

上部さんのお話、とても興味深く聴かせていただきました。
周りを巻き込んでお仕事をしておられるところ、ワクワクが広がって教職員がイキイキ働いておられるだろう様子が想像できました。
仕事をする上で、自分になかった新たな視点がまだまだたくさんあるのだと気付かせてもらいました。もっとお話を聴きたかったです。
上部さんのお話をヒントに、仕事の仕方を見直したり、もっと勉強したりしていきたいなと思いました。

安来市立学校事務グループ・安来市共同学校事務室

の活動について

安来市では、令和4年4月1日に「安来市共同学校事務室」が安来市立第二中学校に設置されました。

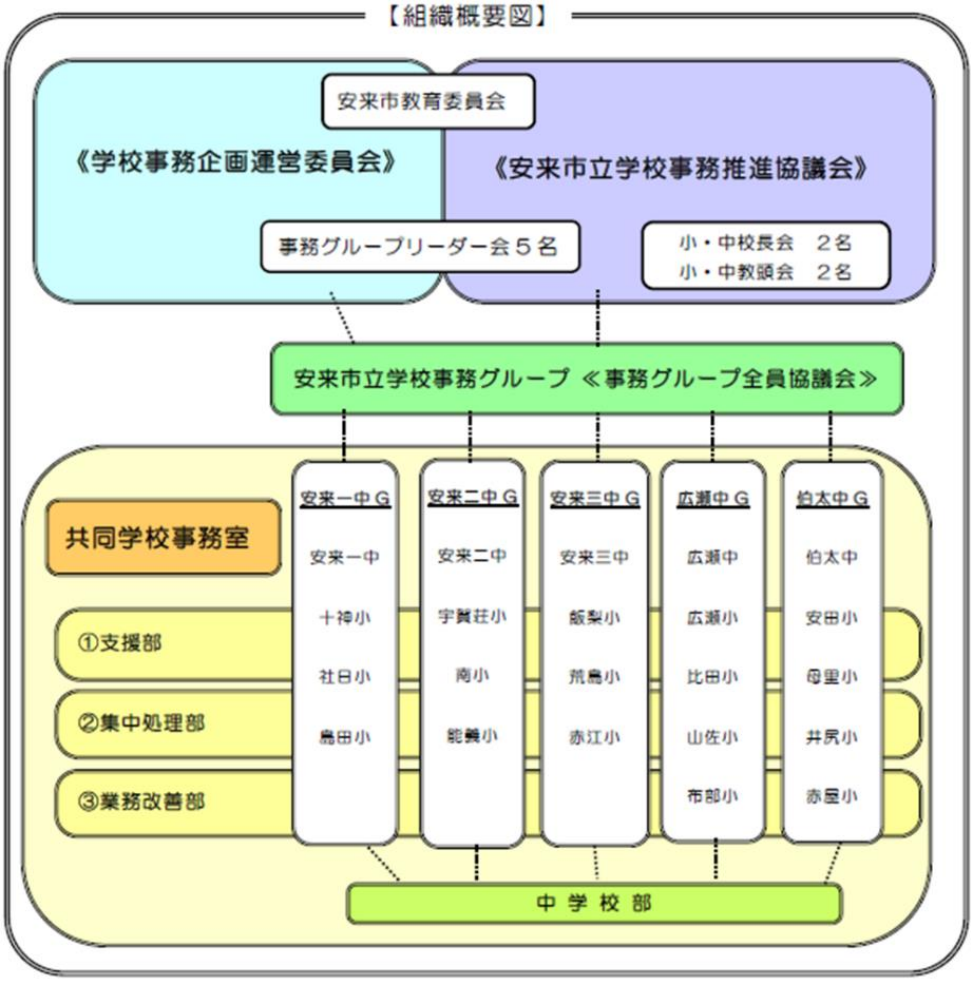
共同学校事務室の設置目的として、安来市立学校管理規則第24条の2によると、「学校における事務処理体制の整備、事務処理の効率化及び学校経営に関する支援を行うため」とされています。また安来市教育委員会が考える安来市における働き方改革の推進のひとつに、共同学校事務室は『業務改善』を推進していく組織として位置づけられています。

この新しい取組はスタートしたばかりですが、共同学校事務室として、安来市内の学校において共通の仕組みを整え、事務の効率化、適正化を図りながら業務改善を推進し、事務体制の強化を行います。さらに業務の中での OJT により、事務職員の資質向上、人材育成も進めます。事務職員それぞれが持っている得意な分野や強みを生かし、時代の変化に柔軟に対応できる、持続可能な共同学校事務室をめざしていきます。

そして学校事務グループと共同学校事務室が連携をし、安来の新しい学校事務のカタチ、「安来スタイル」が確立できるよう活動を進めていきます。

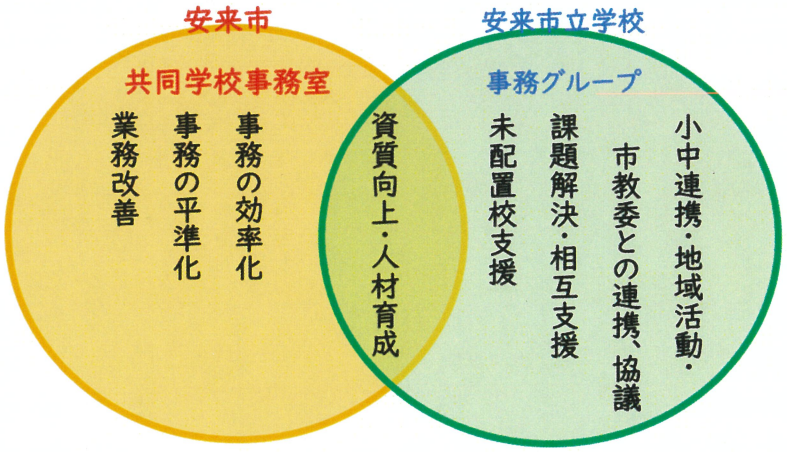
(1)　学校事務の処理体制の整備及び改善に関すること。
(2)　学校教育の支援に関すること。
(3)　学校財務に関すること。
(4)　教材、教具その他の備品の共同購入に関すること。
(5)　教職員の給与及び旅費等の支給に関すること。
(6)　学校の情報管理に関すること。
(7)　事務職員の育成及び資質の向上に関すること。
(8)　その他共同学校事務室で処理することが効果的であると認められる業務に関すること。

（安来市立学校管理規則 第24条の2より抜粋）



共同学校事務室・学校事務グループの業務内容

共同 学校事務室	支援部	・共同学校事務室の運営支援及び各部、他団体との連携 ・人材育成、OJT ・「共同学校事務室だより」の発行 ・初任者研修（教職員対象）の実施
	集中処理部	・例月給与報告データ、旅費請求書の点検 ・諸手当検認、年末調整に係る点検作業 ・教育振興費・理科教育設備整備費補助金に係る備品の共同見積もり ・次年度就学援助認定書類の配付前準備作業
	業務改善部	・校支援システムを活用した文書管理の運用の提案と改善や、旅費請求書システム等、市内統一のシステム開発 ・例規をデータ化し共有する ・学校徴収金等の手引きの整備
安来市立 学校事務 グループ	安来一中G	・新規採用者・若年層事務職員への支援及びOJT、人材育成 ・各校での疑問や課題を共有し、解決に向けての相互支援
	安来二中G	・市外転入事務職員への支援 ・各校の事務処理上の課題・問題の共有と解決に向けての相互支援及びOJT
	安来三中G	・業務の効率化及び業務改善による働きやすい環境づくりの推進 ・日常業務上の質疑、課題解決に向けての相互支援
	広瀬中G	・事務職員未配置校の事務支援 ・日常業務のレベルアップとOJTおよび業務の平準化に向けた相互支援
	伯太中G	・教職員への事務支援 ・各校の業務改善に向けての相互支援
	研修会	・新規採用・若年層事務職員向けの研修を月１回程度開催 ➡諸手当検認、年末調整、危機管理、就学援助、異動事務等
	中学校部会	・中学校に特化した事務について、共通理解を図る



≪事務グループと共同学校事務室のねらい≫

元気の源

安来市教育委員会教育長　秦　誠司

中学校長時代、事務職員さんに「学校事務職員の魅力は何か」と尋ねたことがあります。皆様はどう答えられますか？返ってきた言葉は「ダイレクト感」でした。自らが調達した教材を使って楽しい授業が行われたり、子どもが喜んだりする姿がダイレクトに伝わることが魅力であるという意味でした。また、長年手入れされていなかった松の剪定をしたいなぁとつぶやいたら、早速具体的に経費の提案を受け、７月７日に剪定がなされました。私はそれを「七夕の奇跡」と呼びました。教育環境の整備について、積極的に参画していただきうれしく、頼もしく思いました。

現在安来市では、「教職員が誇りと自信を持って働ける学校づくり」を目指し、教職員の働き方改革を推進しているところです。今年度は２つの重点施策に取り組みました。

１点目は今年度当初より校務支援システムを導入し、ICT 機器を活用して勤務時間の客観的把握をはじめ、旅費管理、休暇管理などの効率化を図りました。

２点目は安来市共同学校事務室の設置です。場所は安来市立第二中学校に置き、室において事務を共同処理することにより、効率的な業務運営、業務の平準化、OJT の実施による学校事務職員の育成及び資質の向上に期待しているところです。

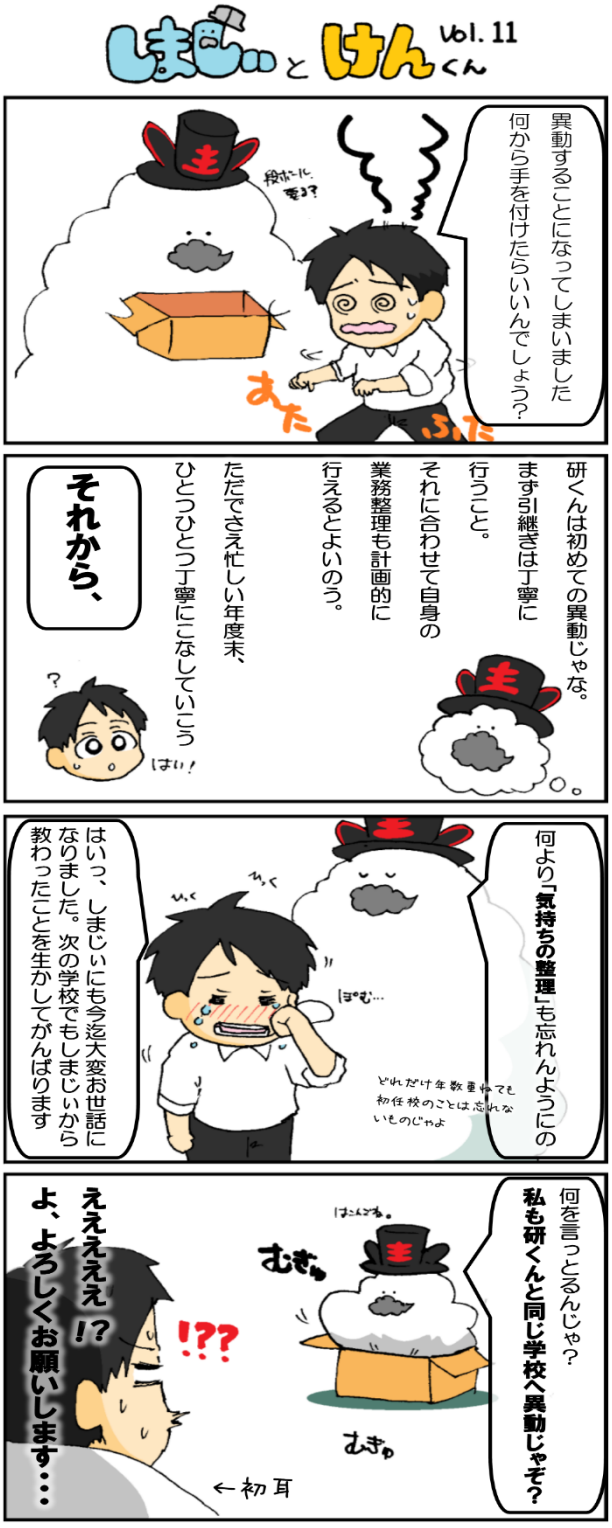
今後多くの皆さんの願いをもとに立ち上がった共同学校事務室が、形骸化することなく実質的に機能することが大切で、教育委員会としても学校事務職員の皆様の主体的な活動に伴走しながら支援をして参ります。そして、共同学校事務室が学校事務職員の皆様の「元気の源」となり、それが全小中学校の元気・活力に波及していきますことを祈念します。

大田市立鳥井小学校
学校紹介

主任主事　岩谷　勇良

鳥井小学校はとても海が近い学校で、校舎からは日本海を望めるだけでなく、わずか徒歩１分で鳥井海岸に足を運ぶことができます。その海を生かした活動として、ゴミ拾いなどの海岸清掃を全校で行う「浜そうじ」や鳥井海岸を縦走して心身を鍛える「浜マラソン」を行っています。特に浜マラソンでは、子どもたちがそれぞれの目標に向かって一生懸命走る姿を見て、自分も頑張らなければ！とやる気をもらっています。

また鳥井地区はぶどうの生産が盛んなため、「ぶどうの学習」を行っています。ぶどう園の見学や収穫体験をしたり、集荷所の見学や店頭での販売体験をしたりして、生産から販売まで幅広く学んでいます。さらには地元の農家やJAの方などの協力のもと、ぶどうの栽培もしています。校地内にぶどう園「ぐんぐんハウス」があり、子どもたちが毎日水やりなどのお世話をしています。しかし、昨年度そのぶどうの木が枯れてしまったため、今年度は新たに苗木から育てています。ぶどうの栽培には手間と時間がかかりますが、ぶどうの木がすくすくと成長し、新たな鳥井小のシンボルとして根付いてくれることを期待するとともに、鳥井っ子の真面目で一生懸命なところも子どもたちの心に根付き、受け継がれていってほしいと思っています。私も子どもたちの学びを支えることができるよう、学校や教職員の働きやすい環境を整えることを目標にして、できることから少しずつ取り組んでいきたいと思います。



原作・画　：　佐伯　圭一

【　編集後記　】

今年度も１年間，御愛読いただきありがとうございました。また，快く寄稿していただいた皆様に心からお礼申しあげます。さて，新型コロナウイルス感染症が猛威を振るうようになってから，ちょうど３年が経ちました。急速にオンライン環境やタブレット端末が整備され，遠隔で研修などが行えるようになりました。一方で，人と人とのつながりが希薄になってしまったようにも感じます。みなさんは，いかがお感じでしょうか？（Ｎ．Ｋ）